

① 『かくれるにふれる』 3月1日(金)オープン

新ゾーン「かくれるにふれる」オープンにあたって

人を含む全ての生きものは多様で個性的だからこそ魅力的です。

そんな思いから、ニフレルでは、多様性をテーマに各展示ゾーンを構成しています。例えば、「いろにふれる」では色彩、「すがたにふれる」では形態がテーマです。

今回は、多様な“かくれる術”に注目し、人の想像を超える独特な方法で周囲の環境に身をかくし、厳しい自然を生き抜こうとする小さな生きものたちの多様な個性に焦点を当てました。

ニフレルで暮らす生きものたちの魅力に気付く事が、
人を含む全ての生きものの個性を認め合う気持ちに繋がることを願っています。

生きているミュージアム・ニフレル館長
小畑 洋

【「かくれるにふれる」で展示する生きものたち】

姿かたちが木の枝や葉にそっくりになることで、周囲の環境に溶け込んでかくれるものや、毒を持つ生きものに見た目も行動も似せることで捕食者からかくれるもの、子どもの頃は大人と全く違う姿をしてかくれ、大人同士の闘争に巻き込まれないようにするものなど、「かくれる」を極めた個性的な生きものたちを展示予定です。

《展示予定種》

・タデジマキンチャクダイ(幼魚)



・成魚 ※展示しません



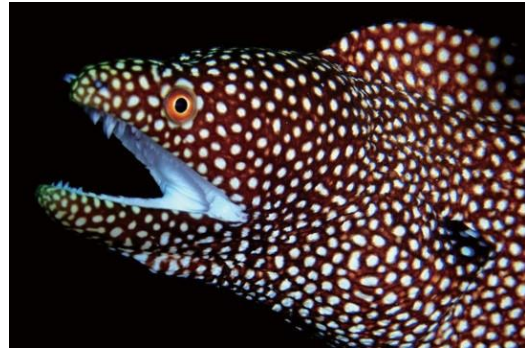
タデジマキンチャクダイの幼魚(写真左)は、成魚(写真右)と大きく模様異なります。
これは成魚の縄張り争いに巻き込まれないためと考えられています。※幼魚のみ展示予定。

・ハナカマキリ



ハナカマキリはランの花に擬態し(写真右)、花にまぎれて待ち伏せしたり、時には花の代わりとなって獲物をおびき寄せて捕獲します。

・ シモフリタナバタウオとハナビラウツボ



シモフリタナバタウオ(写真左)は、全身の白い斑点と、背ビシの後ろにある大きな目玉のような模様で、ハナビラウツボ(写真右)などの大型のウツボに擬態していると考えられています。

・ エダハハラオヤモリ



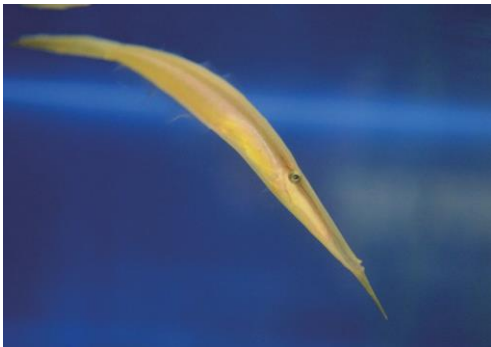
枯れた葉のような体をしたエダハハラオヤモリ。特に尾は木の葉にそっくりです。

・ フトアゴヒゲトカゲ



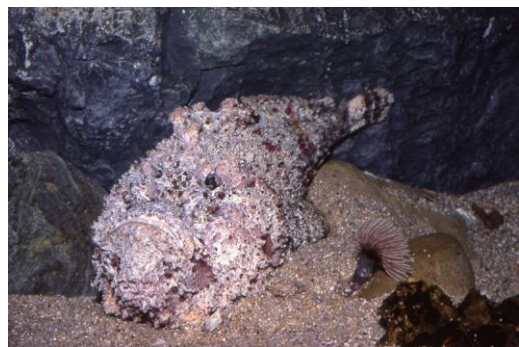
フトアゴヒゲトカゲは、森林や草原、岩のある砂漠地帯など、さまざまな環境に適応し生息しています。砂漠に生息するものは、体を砂と同じ色に変化させ、天敵に見つかりにくくなっています。

・ ウケグチノホソミオナガノオキナハギ



最も長い和名を持つ魚で、細長く平らな体でアマモなどの海藻に擬態していると考えられています。

・ オニダルマオコゼ



全身にゴツゴツとしたコブ状の突起があり、海底の岩にそっくりに擬態し、その姿を見分けるのは大変難しいです。

《展示種合計：13種24点》

魚類8種(タデジマキンチャクダイ、オイランヨウジ、トゲヨウジ、クロウミウマ、ウケグチノホソミオナガノオキナハギ、オニダルマオコゼ、シモフリタナバタウオ、ハナビラウツボ)

爬虫類3種(エダハハラオヤモリ、エボシカメレオン、フトアゴヒゲトカゲ)

昆虫2種(ハナカマキリ、ツダナナフシ)

※展示種・ 展示数は生きものの状況により変更する場合があります。

【ニフレルならではの空間デザイン】

「かくれるにふれる」では、壁面だけでなく、天井と床面にもデザインを施し、空間全体を演出しています。

このデザインは、展示予定のタデジマキンチャクダイの幼魚がモチーフとなっています。タデジマキンチャクダイは、幼魚と成魚で全く異なる体色・模様をしており、成魚の縄張り争いに巻き込まれるのを避けていると考えられています。また、海中の岩のすき間やくぼみの中などでは、その姿は付着生物の付いた岩にまぎれたり、あるいは魚ではない別の生きもののようにも見えます。

今回、「かくれる」というテーマを、空間全体でも表現するために、タデジマキンチャクダイの模様注目し、空間デザインに取り入れました。



【進化し続けるミュージアム「ニフレル」】

ニフレルは、名称の由来ともなった「感性にふれる」をコンセプトに、水生生物や陸上動物など、地球が育む多様ないのちと個性のつながりを自由な発想で表現し、ニフレル自身も生きもののように進化し続けるミュージアムとして誕生しました。

館内の一部ゾーンでは、展示を全面変更できる「可変性」を備えており、「かくれるにふれる」が最初の展示ゾーンの変更に、2020年、2021年にも新たなテーマを持ったゾーンが誕生する予定です。

なお、今回の「かくれるにふれる」のオープンで、館内は合計8ゾーンとなります。



変更前の「みずべにふれる」ゾーン。
光の差し込む水辺の木立をイメージした空間デザイン。



② 大人入館料の改定について

2019年3月1日(金)より、大人(高校生または16歳以上)の入館料を改定します。

区分	2月28日まで	3月1日以降	備考
大人(高校生/16歳以上)	1,900円	2,000円	+100円
こども(小・中学生)	1,000円	1,000円	変更なし
幼児(3歳以上)	600円	600円	変更なし

※身体障がい者手帳、療育手帳、被爆者健康手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちのご本人と介護者1名は、入館料が半額となります。

※団体入館料の変更はございません。

< 施設概要 >



名称	NIFREL(ニフレル)(館長:小畑 洋)
運営会社	株式会社海遊館(大阪市港区、社長:三輪 年)
所在地	吹田市千里万博公園 2-1 EXPOCITY 内ニフレル
営業時間	10:00 ~ 20:00 最終入館は 19:00
休館日	年中無休。 ※年に1回設備点検のための臨時休業あり。
施設内容	8つのゾーン【いろにふれる、わざにふれる、すがたにふれる、WONDER MOMENTS、みずべにふれる、かくれるにふれる、うごきにふれる、つながりにふれる(生きもの約150種・約2000点)】ピクニックカフェ「EAT EAT EAT」(200㎡・112席)、スーベニアショップ(NIFREL×NIFREL)
入館料金	大人(16歳以上)・高校生1,900円、小・中学生1,000円、幼児(3歳以上)600円 ※2019年3月1日より大人(16歳以上)・高校生2,000円
交通	大阪モノレール「万博記念公園駅」徒歩2分
駐車場	約4,100台(EXPOCITY全体用駐車場)
構造規模	S造(一部SRC造、RC造)3階建
建築面積	約3,500㎡(約1,060坪)
延床面積	約7,200㎡(約2,180坪)

※公式ホームページ	http://www.nifrel.jp
※ツイッター	http://twitter.com/nifrel_official
※Facebook	http://www.facebook.com/nifrel.jp
※インスタグラム	http://www.instagram.com/NIFREL_OFFICIAL

